

# 放射性物質の環境動態



## ～ チェルノブイリ原発事故から学ぶ ～

(公社)日本水環境学会では平成24年度環境省環境総合研究推進費革新型研究開発領域(統合評価枠)において、【ZRFB-12T1】「流域に沈着した放射性物質の移動と消長に関する文献調査及び知見整理」をテーマとした、流域に沈着した放射性物質、およびその類似物質の環境中挙動に関する文献調査を行い、放射性物質の環境中での移動および消長についての科学的知見を集約・整理している。

原子力発電所の爆発に伴う放射性物質による環境汚染に関わる調査研究としては、1986年のチェルノブイリの事故で放出された放射性物質の環境動態研究が長期に実施されており、その研究成果から多くのことを学ぶことができると考えられる。

今回、**長年チェルノブイリで実際に放射性物質の環境動態の調査研究に携わっている Dr. MARK ZHELEZNYAK** が来日されることを機会に、**我が国の研究者や関係者と環境中の放射性物質の動態に関わるこれまでの研究と最近の研究成果、教訓などの情報を相互に交換し、今後の対策に結びつける場**として本講演会を企画しました。

主 催： (公社)日本水環境学会

共 催： 筑波大学オールつくばの連携による  
持続可能な流域圏水環境研究拠点

日 時： 2012年10月23日(火) 14:00～17:00

場 所： 東京大学 工学部 14号館 141 講義室

参加費： 無料

プログラム	
14:00～14:10	開会・趣旨説明
14:10～14:30 講演 1	「流出解析モデルによる河川水中の放射性物質濃度の推定」 古米弘明 (東京大学大学院 教授)
14:30～14:50 講演 2	「福島原発事故由来放射性セシウムの河川水系での移行挙動」 長尾誠也 (金沢大学環日本海域環境研究センター 教授)
14:50～15:50 特別講演	「Models of aquatic radionuclide transport implemented for forecasting rivers, reservoirs, lakes and coastal waters contamination after the Chernobyl accident and justification of water protection measures」 Dr. Mark Zheleznyak (Dep. of Environ. Modelling Inst. of Math. Machines and Systems, Nat. Academy of Sci. of Ukraine)
15:50～16:05	休憩
16:05～16:55	質疑、討論
17:00	閉会

### ■問合せ先：(公社)日本水環境学会

〒135-0006

東京都江東区常盤 2-9-7

グリーンプラザ深川常盤 201 号

Tel. (03) 3632-5351

Fax. (03) 3632-5352

### ■会場アクセス

最寄り駅	所要時間
本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)	徒歩 8 分
本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)	徒歩 6 分
湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線)	徒歩 8 分
東大前駅(地下鉄南北線)	徒歩 1 分

